
磁力先生て～が～

トッシー 0 0

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

磁力先生てゝがゝ

【Nコード】

N4457U

【作者名】

トツシー〇〇

【あらすじ】

ブレイブルーの二次創作作品”3年B組ハーデス先生”のスピントフ作品である。

ぶるらじWのアンケートにて「ブレイブルー学園の教師になってほしいキャラ」1位を獲得したティガー先生が主役の短編小説です。

（前書き）

どうもトッシーです。

今日の6月29日は作者の作品の中でも特にお気に入り作品、「3年B組ハーデス先生」を投稿して丁度1年が立った日です。

なのでちょっとした短編を書きました。みなさん読んでくださいね
{

この世には、目には見えない闇の住人達がいる。
やつらは時として牙を向き、君たちを襲ってくる。

彼は、そんな奴らから君たちを守るため、地獄の底からやってきた。
正義の使者……………なのかもしれない……………

「なんでいきなりこんなぬ。べゝみたいな前ぶりになってんの？この話はハーデス先生1周年記念……………」

「スパークボルト！！」

「ぐほ！！」

ラグナがこの短編の詳細を話そうとしたところをティガー先生のスパークボルトが飛んできた。

そう、この話は3年B組ハーデス先生の1周年記念で作者が日頃のアクセス数に感謝感謝で書くことを決めた特別短編……………

だったのだが、それは6月23日に某なんとか動画に上がったプレイブルー公式ラジオ、「ぶるらじ」にて事件は起こった。

その中の「ランキング島」というコーナーで、こういうお題があったのだ。

『もしもプレイブルー学園があつたとして、なつてほしい担任の教師は？』

このアンケートは1ヶ月前から公式で行われており、もちろん作者もアンケートに協力しました。

海に行きたいキャラも部屋覗きたいキャラも全部「ハクメン」で投票しました。半分以上ネタです。

しかしこのプレイブルー学園の担任教師というのにハクメンと答え

たのは結構マジでした。

それは作者の書くハーデス先生を読んでくだされば分かる通り、ハクメン先生が他のメインキャラを押しつけて準レギュラーになるからです。

悪い言い方をすれば非常に”優遇”しております。昔あったらばのハーデス先生スレでもハクメン先生は人気だったのですが……

作者の話が多くなってしまったところで本題へ、そのアンケートの結果だったわけですが、3位からいきなりこんな結果が……

「3位、ラグナ」

うん!?

あれ、もしかして3位がハーデス先生!?

主役が3位? 銀。先生というキャラが存在するというのにもかかわらず3位なんすか!?

これは作者が素で思ったことです。半分くらいはそうです。

じゃあきつと1位はハクメンだろう、個人的にはラグナとハクメンのワンツーフィニッシュがお望みだったのですが……

そして2位の発表、ライチ先生かバング先生が来てくれればと思いその結果は……

「2位、獣兵衛」

え!?

獣兵衛なの? 獣兵衛ってそんな人気あったの!?

作者は考えた。ハーデス先生内の獣兵衛先生の出番の数々を……

読み直してみると、ヴァルケンハインと良い勝負だった。おそらく10話も出ていない……

ああやつちまったなと、こりゃあ次回作の出番は増やしてやろう……

… 作者はそう思いました。
そんなことを思いながらいよいよ1位、さあハクメンか！？その結果は……

「1位、ティガー」

なん………だと………？

某死神漫画みたいな反応をしてしまった。

ティガーか、まあ印象からすればそうなんかな？

ティガーといえば作者のハーデス先生で考えると、いわゆる不遇キヤラでツツコミに位置するキャラ。

しかしこれを言ってしまうえば正直言っただろう、そう………ティガーは正直に……

「バングの劣化」

である。不遇もツツコミもどちらの部分も強調するならバングを使えば解決なのである。

むしろティガーは堅物なイメージがあつて、彼を主軸に話を作るなら良くてドラマ的な展開しか存在しないのである。

というかティガーでギャグなんてむりだろ！彼でギャグ作れば百歩譲ってココノエの話になるだろうが！！

だがしかし、ブレイブルーのファンの的にBB学園の教師になつて欲しいキャラがティガーという結果は現実だ。

ブレイブルーの学園物という話を一人のファンとして作っている作者的には、なんとかしてファンのお心に答えたい。

というわけで今回の短編はティガーが主役で書きたいと思っております。それではじまりはじまり！

…… あ、忘れてた。私が指示するハクメン先生の順位はと言うと……
… 「9位」でした。準レギュラーの位置が危ういかも……

「というわけで、私が今回の主役のティガー先生だ」
「そして準レギュラーの獣兵衛先生だ」

主役二人が登場し、ラグナが若干嫌な顔をする。
今回彼にはノエルと同じツツコミポジションにいてもらう。3位だし。

「言っておくが俺は絶対認めねえからな！俺が主人公だ！！」

「ほお、”3位”が粋がつてるな」

「てんめえ……」

主人公を主張するラグナを、3位という言葉で黙らせるティガー。
原作、ハーデス先生の主役にもかかわらず3位という順位のラグナは何も言い返せない。

「そもそもラグナ、お前”ハーデス先生”って呼ばれたことあったか？もしかしてハーデス先生って実はまったく別のキャラで、ラグナ自身が主役ですらなかったんじゃないか？」

「怖いこと言うんじゃないやねえよ師匠、つか今更そこに触れるのかよ」

獣兵衛がこの作品の核に迫ろうとしたところをラグナがそれを止める。

ハーデス先生はしたらばのスレタイであり、事実ラグナがハーデス先生と呼ばれたことは一度もない。

安心してください、ハーデス先生”ラグナ先生”ですよ。

とまあ色々ラグナいじりが終わったところで、主役で1位のティガー先生が今回の話の趣旨を説明する。

「今回は1位をとった私アイアン・ティガーと2位をとった獣兵衛

先生が、ラグナ先生（3位）に教師としてのありがたを教えてやる
う」

「調子にのりやがって、つうか」（3位）「はやめろ」

3位を強調するティガーにラグナは静かにつっこむ。

というわけで、ラグナの上司である二人が教師というものがなんぞ
やを教えるということとなった。

二期に向けてラグナ先生には、教師である自覚を持ってもらう必要
がある。じゃないと本気で二期で主役降板という自体になってしま
うかもしれない。

なぜなら3位だから、3位が主役という自体では一部のファンが、
「主役はティガーだろうが！」と感想でクレームを出してくるかも
知れない。

そんなことにならぬよう、きちんとラグナが主役としての矜持を見
せ、次にこんなアンケートがあつた際には1位を取れるようになっ
てほしい。

「まずは俺からラグナにお題を出そう、師匠として3位のバカたれ
を鍛えてやる」

「ったく、んでなんだよ？」

「教師として、生徒には一人一人平等に接していかなばならない、
そうするためにどう努力をしていけばいい？」

「……意外にもまともなことを」

ラグナの心配とは裏腹にさっそくまともな展開となった獣兵衛先生
のお題。

これは真剣に答えなきゃな、とラグナはとりあえずこう答える。

「俺の場合なら、普段はなんだかんだで行動してるけど本気で生徒
が困ってたら助けてやる。そういう感じ？」

「違うなラグナ、接すると言うことは”契約”なんだよ、俺と契約しよ」

「言わせねえよ!!」

獣兵衛先生が旬のネタを言おうとしたところをラグナが必死に制止した。

「あんたそれ言いたかっただけだろ!つかおかしいだろ!無理してそのセリフまで持ってただろ!!」

「俺と契約してGTOになつてくれよラグナ、そして俺と一緒にPEROPEROしようよ」

「うるせえよ!PEROPEROすんじゃねえよ!!つつかま。かマギカから離れる!!」

結局ボケ倒す獣兵衛先生だった。

獣兵衛先生は最近自分に(名前が)似たキャラが、あおちゃん(ペロペロの中の人)演じる魔法少女に契約契約迫るアニメを見たため味をしめたらしい。

このまま黙っておけば二期でいやになるくらい契約ネタを言ってくるだろう、ラグナにとってそれはなんかいやだったためこれからはマークすることに。

ラグナが師匠からありがたい?言葉をもらった後、いよいよ1位で主役のティガーの授業が始まる。

「GTO(グレート・ティーチャー赤・鬼)でおなじみのアイアン・ティガーだ」

「なんか区切り方が無理矢理な気がするんだが……」

「色々と質問していくから、それに答えるように……」

ティガーにそう言われ、ラグナは疲れた顔をしながらも席に座る。

そして最初の質問はこんなシンプルな物であった。

「もしも授業中に生徒が教室から出て行ったらどう対処するか、だ」
「不良生徒とかのあれか、とりあえずそいつにかまってたら授業に影響が出るだろうし、他の生徒に迷惑もかけたくないからとりあえず放っておいて、後から話に行く……ってところかな？」

ラグナはとりあえずそれらしいことを言った。

出て行った生徒にも、残された他の生徒にも影響を出さない考え方である。

出て行った生徒を無理矢理説得しても言うことを聞いてくれる確立はまちまちだし、その説得する時間で授業時間がつぶれてしまう。勝負は授業が終わった後の中休みである。それが無理なら後に補修をウケさせればいい。

そんな感じで言ったラグナのあと、ティガーはこう正解を出した。

「答え、”吸います”」

「無理矢理教室に引き戻したよこいつ！つかあんた授業受けるやつら全員に磁力つけてんのか！？」

要は出て行った生徒を磁力で吸えば解決……ってそれはティガーにしかできない芸当のような……

ティガーの正解にラグナは半場呆れつつ、次のお題に。

「もしも授業中に先生に指名された生徒が問題に答えられなかったらどう対照するか、だ」

「ああ、あれ気まずいもんな。「違います」とか「残念」とかで終わらせるとその生徒がかわいそうだな。これはちよっとわかんねえな」

先生に指名された生徒が問題に答えられず、「えつと……」「あゝ」とか言っちゃうあれである。

その時の他人の視線、特に先生の視線がとても恥ずかしいのだ。厳しい先生なら「はい次」で終わらせ、生徒を気まずい状態にしたままにしてしまうところ、GTOティガーがだした正解は……

「答え、”吸います”」

「また吸うのかよ！やめたげてよ！！相手は気まずい空気の中必死に答え絞り出そうとしてるんだぞ！！」

答えられない恥ずかしさも、その気まずさも全て吸って解決、とダ○ソな考え方を示すGTOであった。

容赦ないティガー先生にラグナは帰りたい気持ちを抑え次のお題に

「教師に暴力を振るう生徒はどう対処する？」

「吸うんだろどうせ！！」

「おいしいな、”投げる”だ」

「よけい質悪いわ！！」

どうやらティガー先生はなんにでも容赦がないようだ。

どんな状況も磁力で解決がティガー先生のモットー、それらの一部始終を聞いていた獣兵衛先生はこう漏らした。

「おいおいティガー先生、なんでも磁力で解決とは、訳が分からないよ」

「あんたは隙あらば言ってるじゃねえよ！！、今のあんたの方が訳が分からないよ！！」

もはや言いたいだけになってきた獣兵衛先生であった。

やっぱりこの二人が主役では身が持たない、というかここまでツツ

コミしても疲れを知らないノエル存在にラグナは今になって感謝した。

もう帰る、そう思った時であつた。

「せっかくだしラグナ、次回作でへばらないようここで一回投げられてこい」

「は！？おい師匠いきなり何を……ってなんか吸われてる！！」

ラグナの体がどんどんテイガーに吸われていく。

そしてガシッとラグナを掴んで、テイガーがこう一言。

「まあこれが、ミエナイチカラってやつだな」

「ふざけんなこのやる——！！」

祈りはすんだか？貴様はこれで……終わりだ――

というわけでGETBを食らい意気消沈のラグナであった。

哀れ3位、
ただどラグナ・ザ・ブラッドエッジ……

主役はお前しかあり得ない、ハーデス先生がここまで来れたのはお前のおかげだ。

いや……ここまで来たのはこの作品を指示してくださったみなさんのおかげです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4457u/>

磁力先生て～が～

2011年10月5日05時56分発行